

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび下記検査項目におきまして、検査内容を変更させて頂
いていただきたくご案内いたします。
何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

敬 白

記

◆ 変更実施日

2017年2月24日(金)ご依頼分より

◆ 変更項目

検査項目	●ポリコナゾール	●ベプリジル
	●クロナゼパム	●アプリンジン
	●クロバザム	●メキシレチン
	●ニトラゼパム	●塩酸ピルジカイニド
	●ガバペンチン	●プロパフェノン
	●ラモトリギン	●コハク酸シベンゾリン
	●トピラマート	●フレカイニド
	●レベチラセタム	●細胞診(婦人科)〔ベセスダシステム〕
	●アミオダロン	●細胞診(婦人科CR)

●薬物検査について

薬物検査の測定精度向上を目的に、測定機器を変更いたします。本変更に伴い、検査方法・検体量・所要日数等も変更となります。なお、新法における測定法文献はございませんので、割愛させていただきました。

変更項目および変更内容は下記一覧となります。2頁以降には、変更内容毎に分類し、記載しておりますのでご参照ください。

検査項目	変更内容	新	現
薬物14項目(下記*除く)	検査方法	LC/MS/MS	HPLC

*トピラマート、レベチラセタムの検査方法は、LC/MS/MSから変更ございません。

掲載頁	種類	項目コード	項目名	検体量		所要日数(日)	
				新	現	新	現
2	抗菌薬	61809	ポリコナゾール	血漿 0.3 mL	血漿 0.5 mL	3~5	3~6
3	抗てんかん薬	09660	クロナゼパム	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
3		C8564	クロバザム	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
3~4		08419	ニトラゼパム	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
2		62016	ガバペンチン	血漿 0.3 mL	血漿 0.5 mL	3~5	3~6
3~4		Y2860	ラモトリギン	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
4		64623	トピラマート*	変更なし	血漿 0.3 mL	3~5	3~9
4		64616	レベチラセタム*	変更なし	血漿 0.3 mL	3~5	3~9
7		循環器用薬	27384	アミオダロン	血漿 0.3 mL	血漿 0.6 mL	変更なし
5	64528		ベプリジル	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
5	56281		アプリンジン	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
5~6	87226		メキシレチン	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
5~6	25154		塩酸ピルジカイニド	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
8	24263		プロパフェノン	血清 0.3 mL	血清 1.5 mL	変更なし	3~5
5~6	21262		コハク酸シベンゾリン	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL	変更なし	3~5
9	21329		フレカイニド	変更なし	血清・血漿 0.3 mL	変更なし	3~5

●ポリコナゾール [6180 9]

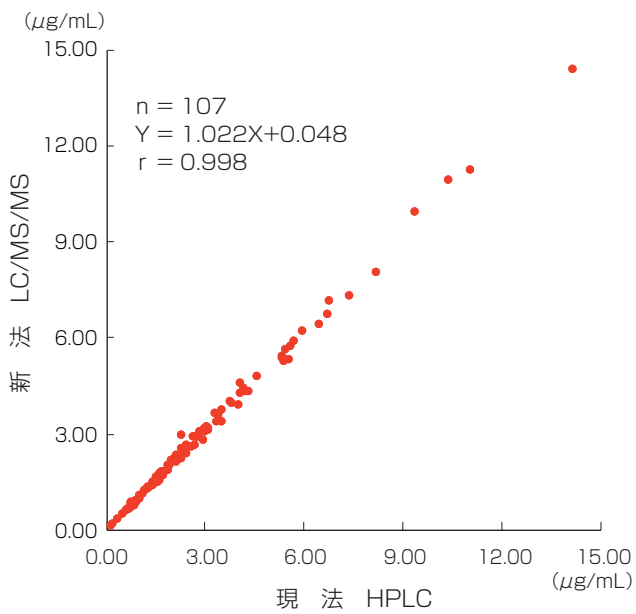
●ガバペンチン [6201 6]

検査方法、検体量、所要日数が変更となります。

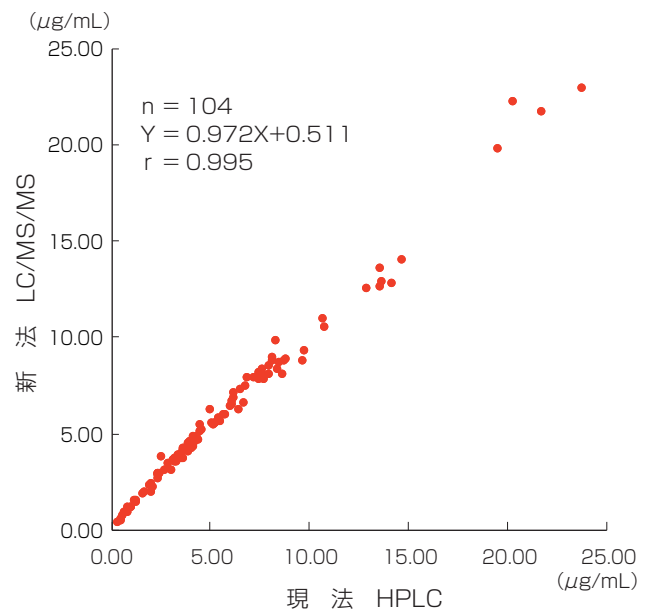
変更内容	新	現
検査方法	LC/MS/MS	HPLC
検体量	血漿 0.3 mL	血漿 0.5 mL
所要日数	3~5 (日)	3~6 (日)

▶ 現法と新法の比較

ポリコナゾール



ガバペンチン



● クロナゼパム [0966 0]

● クロバザム [C856 4]

● ニトラゼパム [0841 9]

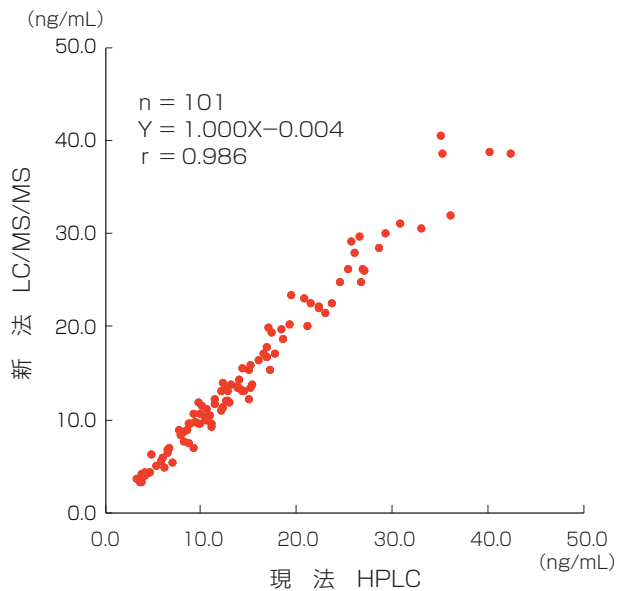
● ラモトリギン [Y286 0]

検査方法、検体量が変更となります。

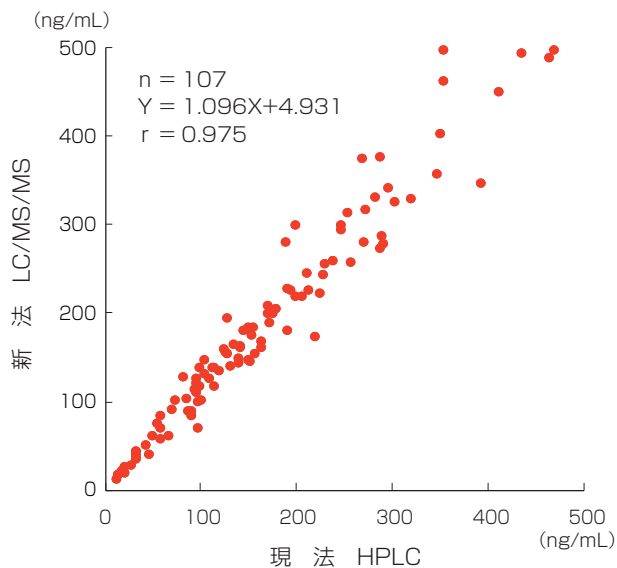
変更内容	新	現
検査方法	LC/MS/MS	HPLC
検体量	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL

現法と新法の比較

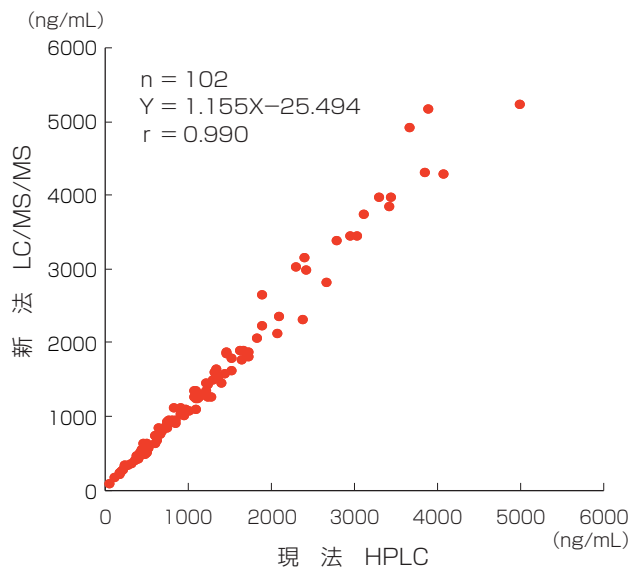
クロナゼパム



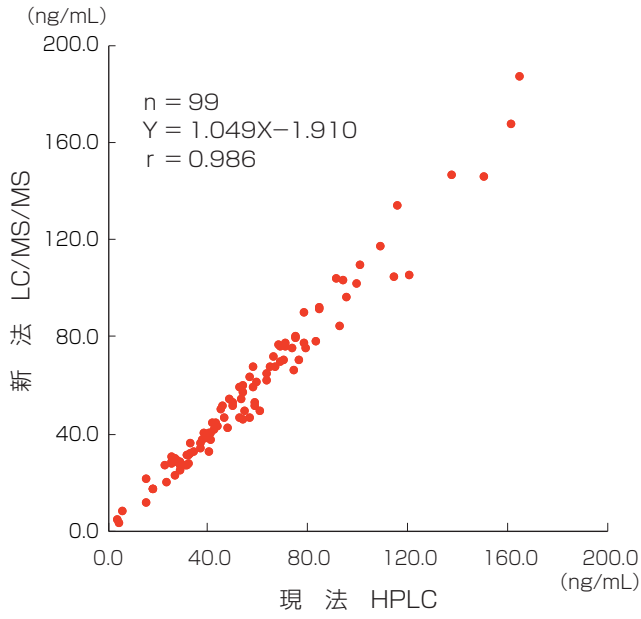
クロバザム



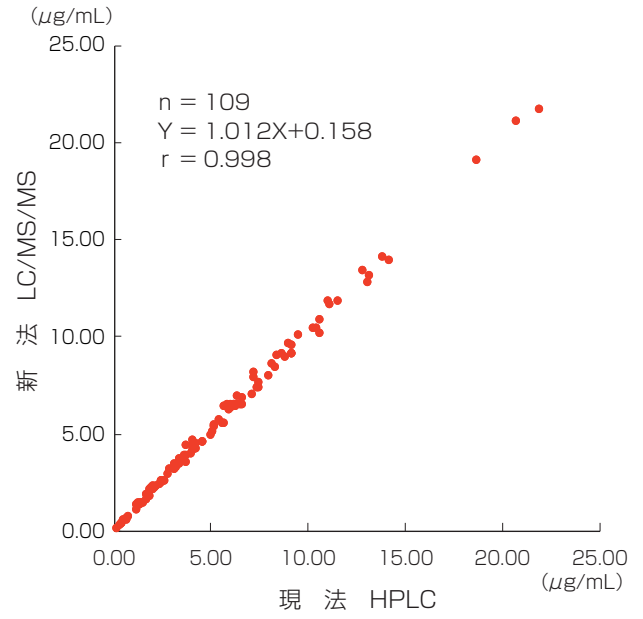
デスメチルクロバザム



ニトラゼパム



ラモトリギン



●トピラマート [6462 3]

●レベチラセタム [6461 6]

.....

所要日数のみ変更となります。

変更内容	新	現
所要日数	3~5 (日)	3~9 (日)

●ベプリジル [6452 8]

●アプリンジン [5628 1]

●メキシレチン [8722 6]

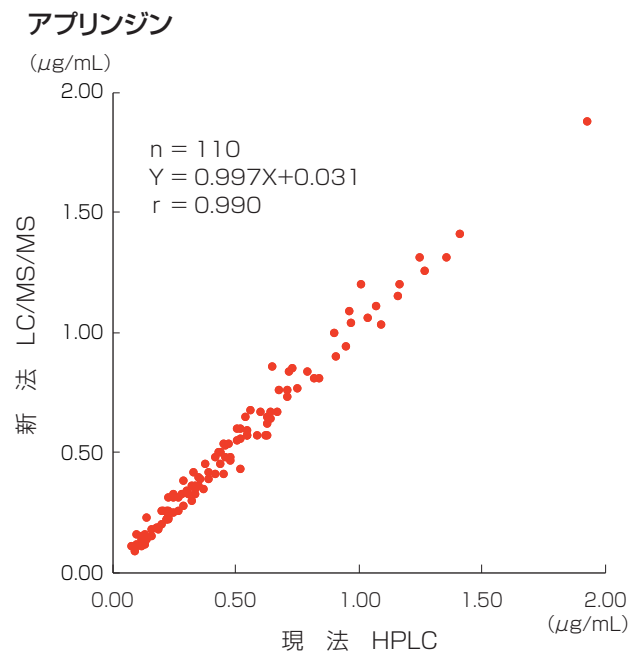
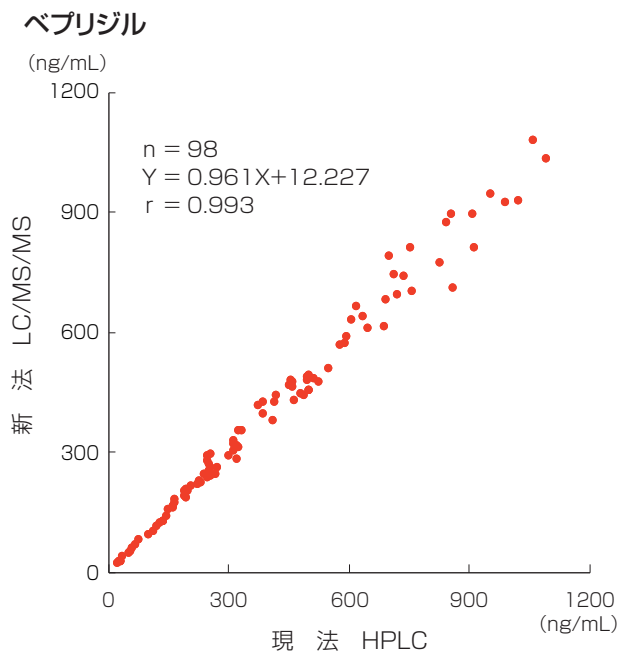
●塩酸ピルジカイニド [2515 4]

●コハク酸シベンゾリン [2126 2]

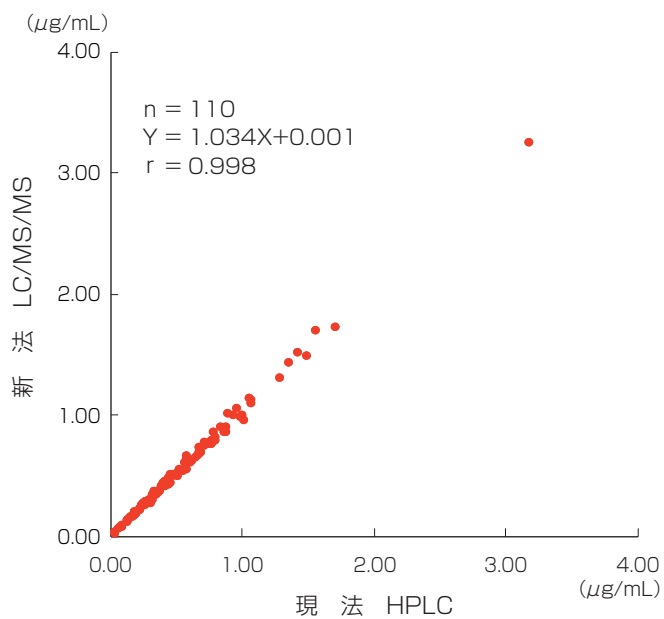
検査方法、検体量が変更となります。

変更内容	新	現
検査方法	LC/MS/MS	HPLC
検体量	血清・血漿 0.3 mL	血清・血漿 0.5 mL

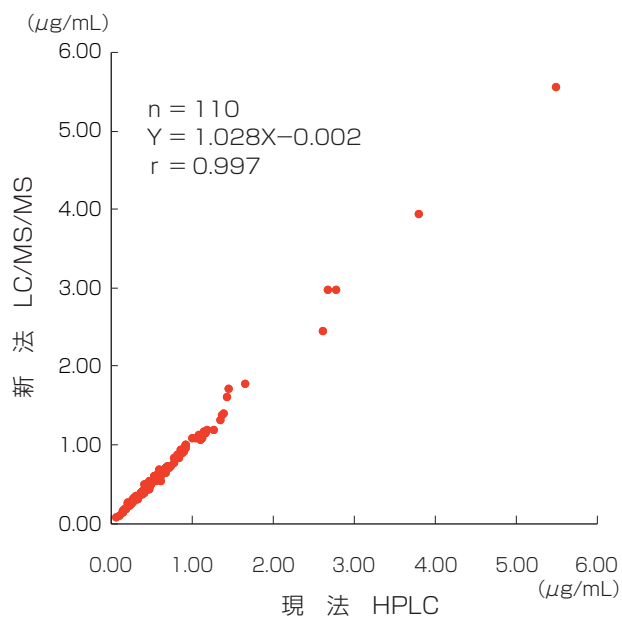
現法と新法の比較



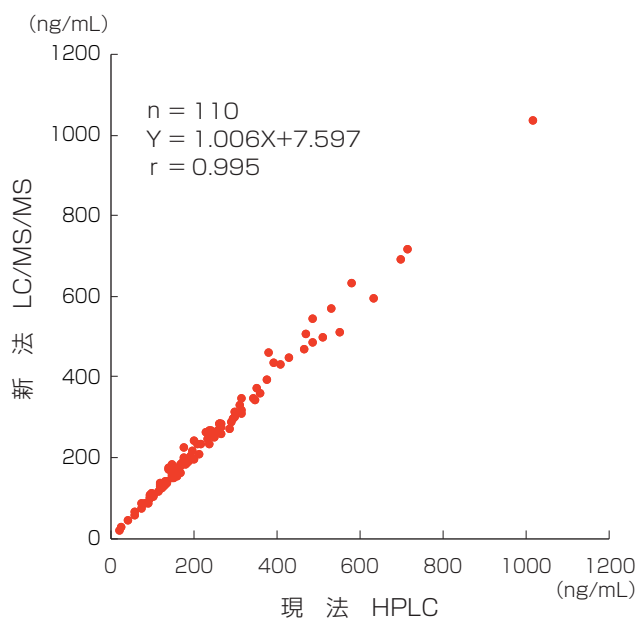
メキシレチン



塩酸ピルジカイニド



コハク酸シベンゾリン



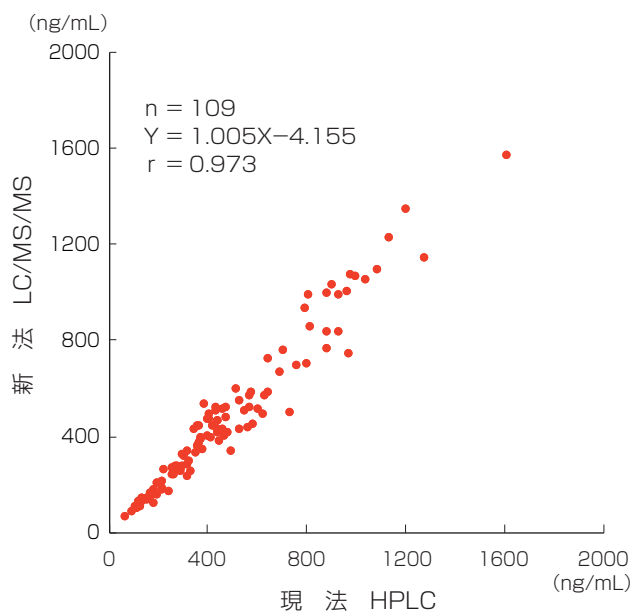
●アミオダロン〔2738 4〕

検査方法、検体量が変更となります。

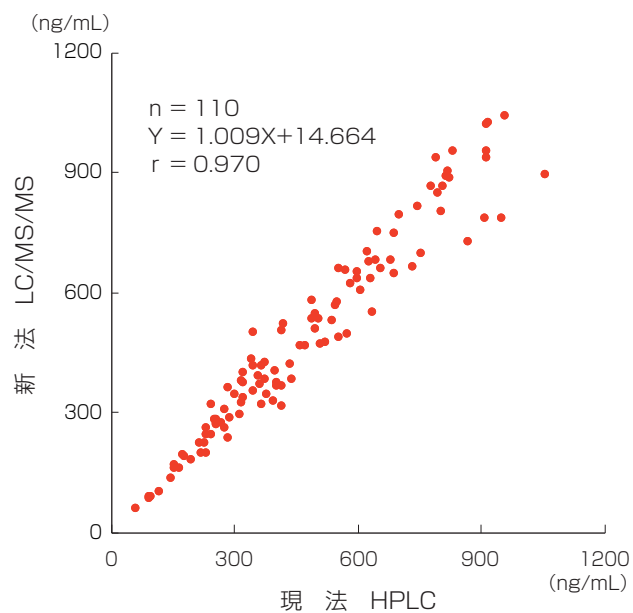
変更内容	新	現
検査方法	LC/MS/MS	HPLC
検体量	血漿 0.3 mL	血漿 0.6 mL

▶ 現法と新法の比較

アミオダロン(AMD)



モノデスエチルAMD



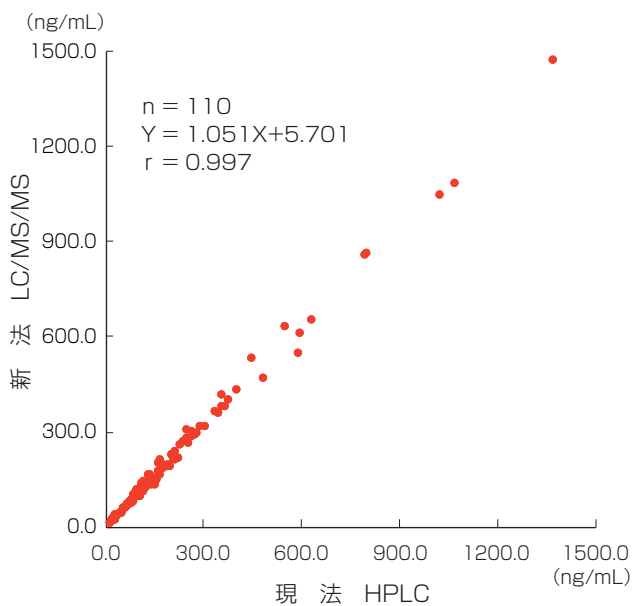
●プロパフェノン〔2426 3〕

検査方法、検体量が変更となります。

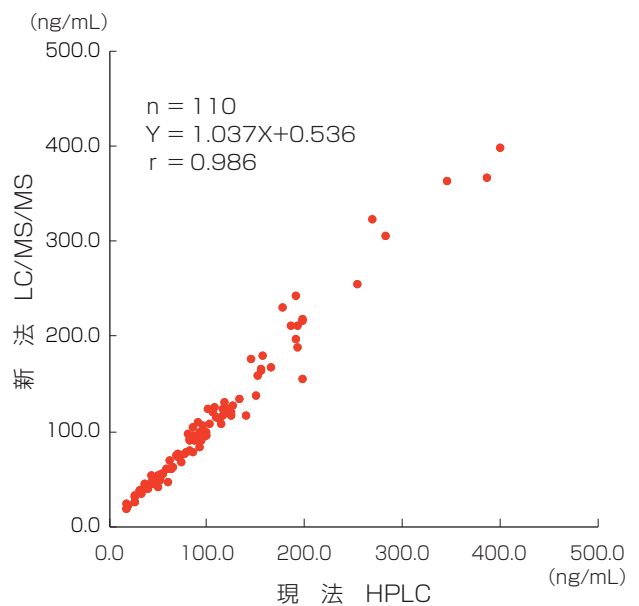
変更内容	新	現
検査方法	LC/MS/MS	HPLC
検体量	血清 0.3 mL	血清 1.5 mL

▶ 現法と新法の比較

プロパフェノン



5-OHプロパフェノン

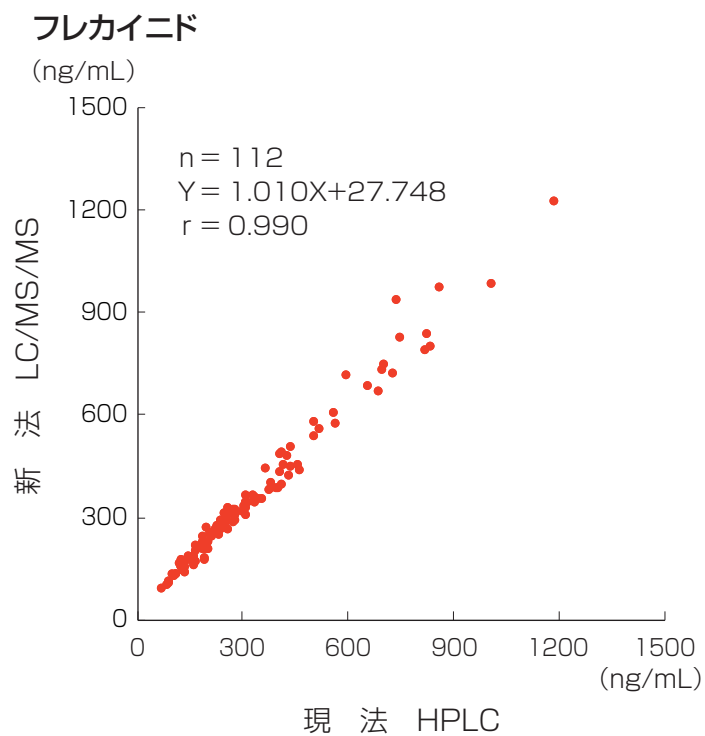


●フレカイニド〔2132 9〕

検査方法のみの変更になります。

変更内容	新	現
検査方法	LC/MS/MS	HPLC

▶ 現法と新法の比較



●細胞診(婦人科)〔ベセスダシステム〕

機器老朽化により、方法変更をいたします。本変更に伴い、ご提出いただく容器ごとに項目を設定させていただきます。項目コード、検査項目名称、提出容器等が変更となります。また、スライド返却を終了させていただきますので、ご了承願います。

提出容器の変更により、取扱い方法が変更となりますので、次頁を参照ください。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
6291 5	細胞診(婦人科) 〔ベセスダシステム〕	項目名称 および 項目コード	6241 8: 細胞診(婦人科LBC ベセ スダシステム) 6242 5: 細胞診(婦人科 ベセスダ システム)	6291 5: 細胞診(婦人科) 〔ベセスダシステム〕
		検査方法	6241 8:TP染色 6242 5:パパニコロウ染色	パパニコロウ染色
		容 器	6241 8:V41 (f6) 6242 5:Z10 (t)	V40 (f2)、Z10 (t)
		参考文献	Cancer 111(5)285~ 291 2007.	なし

●細胞診(婦人科CR)

機器老朽化により、方法変更をいたします。本変更に伴い、検査項目名称、提出容器等が変更となります。提出容器の変更により、取扱い方法が変更となりますので、次頁を参照ください。

項目コード	検査項目	変更内容	新	現
2326 0	細胞診(婦人科CR)	項目名称	細胞診(婦人科LBC)	細胞診(婦人科CR)
		検査方法	TP染色	パパニコロウ染色
		容 器	V41 (f6)	V40 (f2)
		参考文献	Cancer 111(5)285~ 291 2007.	Howell LP et al Acta Cytologica 42(1)171 ~177 1998.

専用容器の取り扱い方法について

容器形態	検査項目	保 存	
<p style="text-align: center;">V41</p> <p style="text-align: center;">旧容器記号</p> <p style="text-align: center;">f6</p>  <p>内容 メタノール55%</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年6ヶ月</p>	<p>細胞診（婦人科 LBC ベセスダシステム） 細胞診（婦人科 LBC）</p>	<p>室温</p>	
	採取方法		
<p>1</p> 			<p>①子宮頸部の細胞を採取する。 綿棒以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用いて細胞を採取してください。</p>
<p>2</p> 			<p>②細胞を洗い落とす。 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。</p>
<p>3</p> 			<p>③しっかりフタを閉める。 採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、室温保存してください。 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。</p>
<p>【ご注意】 妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、スパーテル等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液の中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存してください。また、綿棒では無理な力がかかかりますと折れる可能性がありますので充分にご注意ください。</p>			